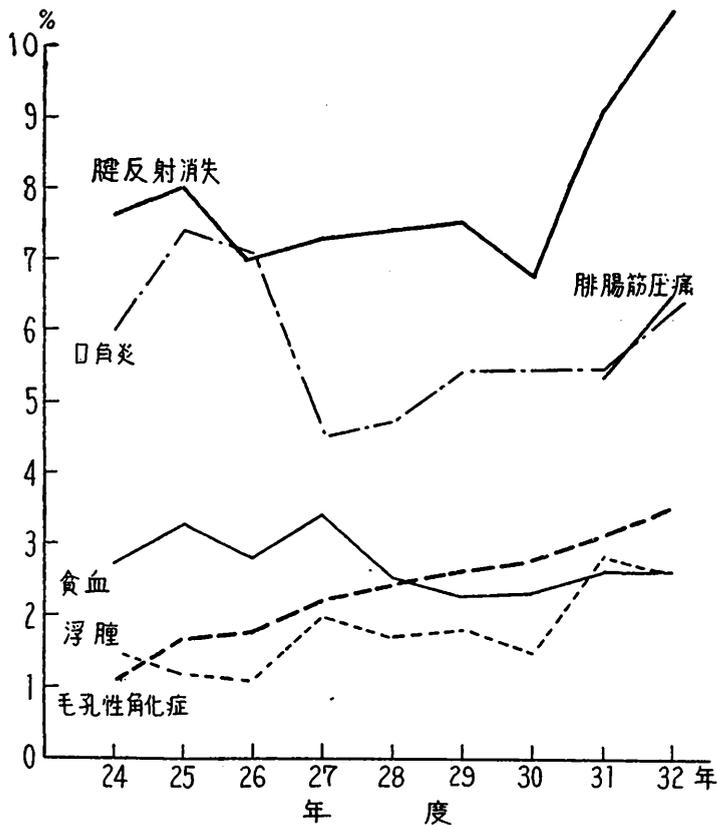


4. 栄養欠陥による身体症候

1) 全国的傾向

栄養素の不足による身体症候の発現率を前年と比較してみると、ビタミン B₁, B₂ 欠乏症候とみられる

第 14 図 身体症候発現率 (全国・年次推移)

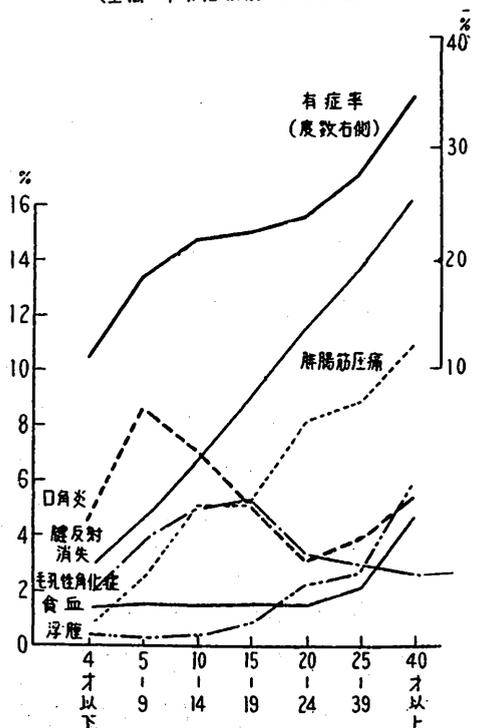


脚反射消失, 腓腸筋圧痛及び口角炎がかなり増加しており前述の栄養摂取状態を裏書きしている。

年次推移をみると、脚反射消失は第 14 図にみられるように、24年には7.6%を示し、その後29年までは僅かながら減少ないしは停滞の傾向をみせていたが、31年には9.1%、さらに32年には10.5%と増加した。

口角炎も25~26年には7%前後の発現であつたが、27年には4.5%にまで減少した。しかし遺憾ながらそれ以後は食糧消費水準が向上しているにもかかわらず、軽度ながら上昇傾向をみせ、32年は6.3%を示した。

第 15 図 身体症候発現率 (全国・年令階級別・5月調査)



第 14 表 栄養欠陥による有症者率の年次推移

年次	24年	25	26	27	28	29	30	31	32
有症者率	19.7	23.7	21.6	22.9	22.6	24.1	22.5	22.6	25.9

なお、栄養欠陥による身体症候を持つ者の総数に対する比率、すなわち、有症者率は第14表に示すように数年来の22~23%を上回り25.9%に及んでいる。

2) 年令的傾向

第15図にみられるように、脚反射消失, 腓腸筋圧痛, 浮腫は年令の増すごとに増加している。これを5月調査についてみると4才以下では脚反射消失2.7%, 腓腸筋圧痛0.7%とかなり低率であるが、両症候とも年令の増加に正比例し、40才以上では前者が16.2%, 後者は10.8%にまで増加している。

口角炎は4才以下では4.5%であつたが5~9才の発現率が

最も高く8.6%となつている。20～24才の年齢層での発現率は最も低く3.1%であるが、25才以上になるとまた僅か増加をみせている。

毛孔性角化症は4才以下の有症率が最も低く1.8%、15～19才では5.3%で最も高率であるが、それ以後はまた下降している。

貧血は24才以下の年齢層での差はなく、おおむね1.5%であるが、40才以上では4.7%に及んでいる。

浮腫は、乳幼児、青少年の発現は少いが、40才以上では6.2%を示す。

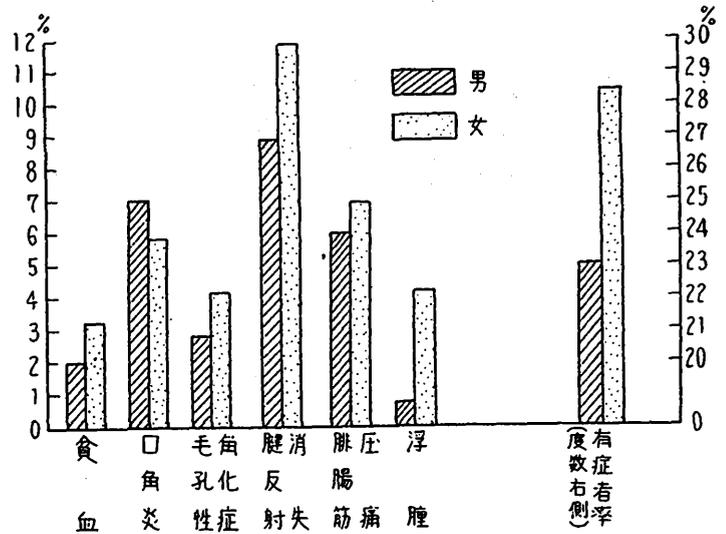
次に身体症候を持つ者の数は4才以下では10.1%であるが、年齢の増加に正比例して増加し、25～39才では27.6%、40才以上では34.8%に達している。

3) 性別発現率

男女別にみると第16図にみられるように、身体症候を持つ者の数、すなわち有症者率は、男23.0%に対し女は28.4%で、約5%ほど女の有症率が高い。

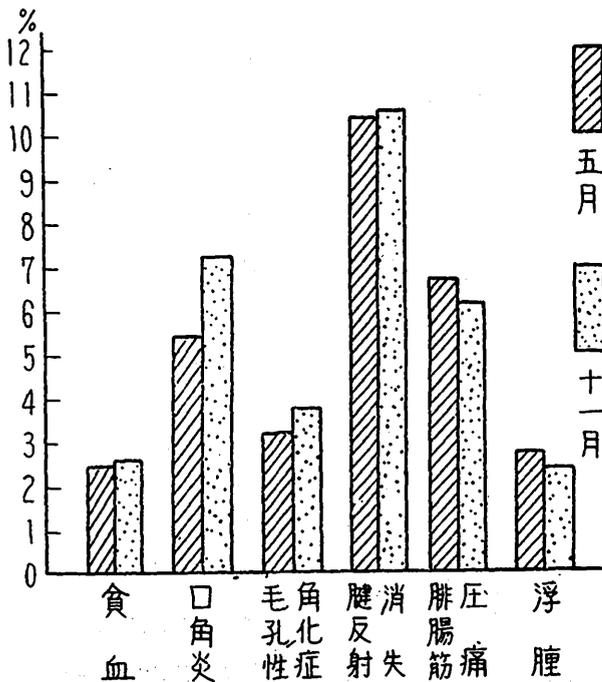
個々の症候についてみると口角炎に限り男の発現率が高く、女5.8%に対し男では7.0%とかなり多い。他の症候ではすべて女の発現率が高く、特に浮腫は男は0.7%とほとんどみられないのに対し、女は4.2%にも及んでいる。

第16図 身体症候発現率(性別)



4) 季節的傾向

第17図 身体症候発現率(季節別)



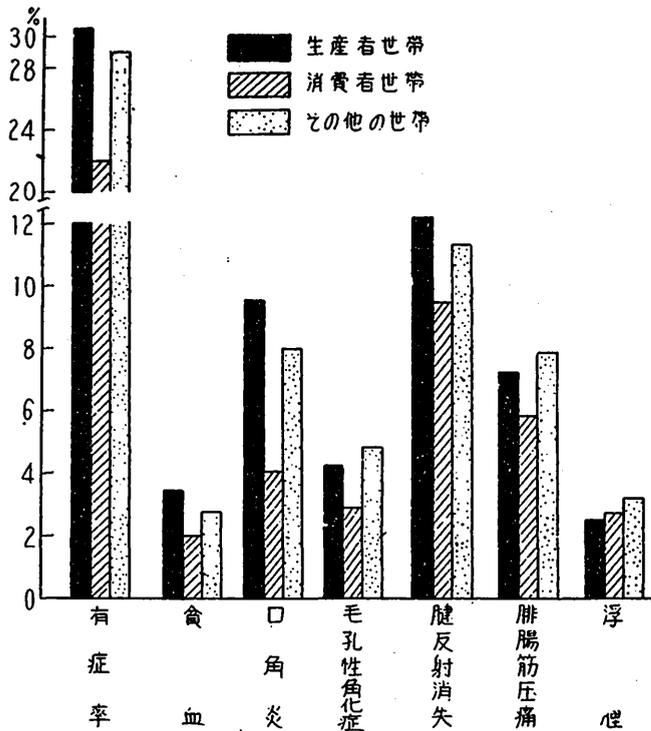
栄養欠陥調査は、同一対象について5月と11月の2回にわたり実施したが、第17図にみられるように特に顕著な差異は認められなかった。

なお、細かく観察すると第17図によつて明らかとなっており、貧血、口角炎、毛孔性角化症、腱反射消失は僅かながら11月に発現多く、腓腸筋痛、浮腫は5月の発現率が若干高い。

5) 業態別発現率

生産者世帯及びその他の世帯は第18図にみられるとおり、各症候を通じて消費者世帯よりも罹患率が高く、そのため年平均における有症者率は生産者世帯30.8%、消費者世帯22.0%、その他の世帯29.7%となつており、

第 18 図 身体症候発現率 (業態別)



生産者世帯の発現率はきわめて高率である。

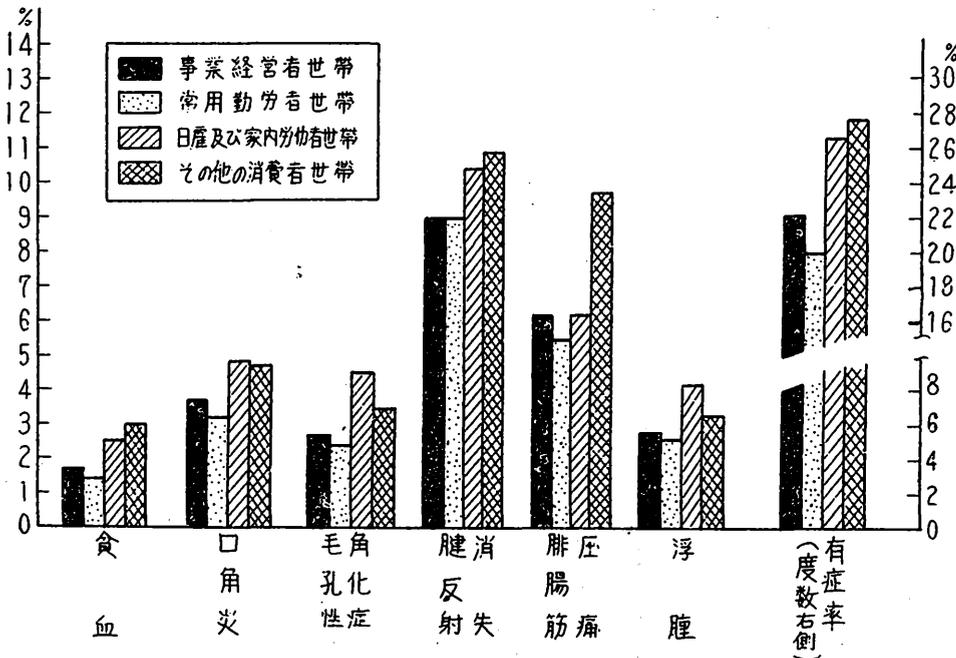
個々の症候についてみると、浮腫を除く他の症候にあつては、いずれも生産者世帯の有症率が高く、その他の世帯がこれに次ぎ、消費者世帯は最も罹患率が低く、特に顕著なものは口角炎で消費者世帯の4.0%に対し生産者世帯では約2.4倍に相当する9.5%を示している。

次に5月調査の消費者世帯を細分した調査結果についてみると第19図によつて明らかとなり、常用勤労者世帯が最も有症率少く19.8%、最も多いのはその他の消費者世帯の27.6%である。

個々の症候においても常用勤労者世帯は最も低率であるが、その他の消費者世帯

帯ではビタミン B₁ 欠乏症候、日雇及び家内労働者世帯ではビタミン B₂ 欠乏症候が多発している。

第 19 図 身体症候発現率 (消費者世帯の細分・5月調査)



5. 体 位

戦争終了前後に著しく低下した国民の体位は、食糧事情の好転により逐年回復を示し、さらに栄養に対する一般認識の向上及び保健衛生等の進展に伴い、おおむね昭和30年頃から青少年の体位は戦前に日本人